

ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性を調査しました

ヒラズハナアザミウマは、イチゴの花や果実を吸汁して被害を与え、品質低下を引き起こします

安定生産のためには定期的に本種の薬剤感受性をモニタリングして有効な薬剤を確認しておく必要があります。そこで、県内各所から採集したヒラズハナアザミウマに対し、イチゴ栽培で使用する薬剤の効果を調査しました。



ヒラズハナアザミウマ



加害された果実



感受性試験の様子

イチゴの「アザミウマ類」で登録がある薬剤のヒラズハナアザミウマ雌成虫に対する効果（葉片浸漬法、処理2日後）

IRAC コード	薬剤名	有効成分量 (%)	希釈倍数	海津市 南濃町 (イチゴ)	海津市 海津町 (イチゴ)	恵那市 三郷町 (イチゴ)	恵那市 岩村町 (イチゴ)	中津川市 中津川 (イチゴ)	郡上市 高鷲町 (イチゴ)
4A	アセタミプリド水溶剤	20.0	2,000	○	◎	◎	◎	◎	○
5	スピノサド水和剤	25.0	5,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	スピネトラム水和剤	11.7	2,500	◎	◎	◎	◎	◎	◎
21A	トルフェンピラド水和剤	15.0	1,000	×	×	×	×	×	×
23	スピロテトラマト水和剤	22.4	2,000	×	×	×	×	×	×
30	フルキサメタミド乳剤	10.0	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
34	フロメトキン水和剤	10.0	1,000	×	×	○	○	×	×
ー・5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	75.0・5.0	1,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
UN	ピリダリル水和剤	10.0	1,000	×	×	×	×	×	×

補正死虫率（Abbott, 1925） ◎：90.0%以上 ○：70.0～89.9% △：50.0～69.9% ×：50.0%未満

（研究成果）

- ・アセタミプリド水溶剤、スピノサド水和剤、スピネトラム水和剤、フルキサメタミド乳剤、脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤は、複数の個体群に対し高い効果が認められました。
- ・トルフェンピラド水和剤、スピロテトラマト水和剤およびピリダリル水和剤は、今回供試した個体群では即効的な殺虫効果は認められませんでした。
- ・フロメトキン水和剤は、恵那市の2個体群に対し効果が認められたものの、他の個体群では即効的な殺虫効果は認められませんでした。

より詳しく知りたい場合は
関西病虫害研究会報（66）：110-112（2024）
岐阜県平坦部で発生するヒラズハナアザミウマの薬剤感受性 を参照



（岐阜県農業技術センター 病理昆虫部）